

正しい祈りの姿勢：「父なる神との関係を深める」(23)

メッセージ・ノート 2021.7.18

マタイ 6:9-13 むしろ、こう祈りなさい。「天にいらっしゃる私たちのお父様。あなたのお名前があがめられますように。あなたの御国が来ますように。あなたの御心が天で行われるように、地上でも行われますように。私たちに毎日必要なものを、今日もお与えください。 私たちに負い目のある人々を、私たちが赦しましように、私たちの負い目も赦してください。私たちが誘惑に遇わず、悪魔から救い出してください。御国と力と栄光は、いつまでもあなたのものです。アーメン。」(現代訳)

■ 祈りの順番 体の必要→精神の必要→霊の必要という順番

- a. **現実的**：目の前の日常の問題が気になり、それ以外考えられない私たち実情を知っておられる神
 - ・ 体の必要を祈った時に、この肉体的生命は、「いのち」の一部分にしか過ぎないことを悟る
 - ・ 主との交わりこそが、人生を支えるものであると気づき、そのために祈り始める
 - ・ すると、その大切な交わりから私を引き離そうとする妨害に気づき、そのことについて祈るようになる
- b. **非現実的**：「神の国」の実現のために祈った後、論理的には、その神との関係である霊に関する事、次に他人との関係である精神的な事、そして、自分の必要に関する事のように思えるが…

■ 日ごとの糧

1. 「日ごと」の意味

- a. 「今日の糧」、「明日必要となる糧」とも訳せる。「私たちに毎日必要なものを、今日もお与えください」の意味
- b. 私たちが求めるべきものは、その日その日に十分なもの、必要なものだけということだが、それは結構難しい
- c. 「糧」は、食料に限定されない。生活上必要なすべてのもの **箴言 30:7-9** ⁸ 貧しくもなく、また富みもせず、ただなくてならぬ食物でわたしを養ってください。⁹ 飽き足りて、あなたを知らないといい、「主とはだれか」と言うことのないため、また貧しくて盗みをし、わたしの神の名を汚すことのないためです。

☆ 主は、私の丁度よい加減を知っておられ、必要な分を必要な時に与えてくださるということを信頼する

2. 気配りの神様 (宇宙の偉大な神が、私の個人的必要についてまで気配りをなさる)

- a. 最高の気配り **マタイ 10:29-31** ²⁹ たった一羽の雀でさえ、あなたがたの天の父の許しなしに地に落ちることはありません。³⁰ あなたがたの髪の毛さえ一本残らず数えられています。³¹ ですから、心配しなくてもいいのです。あなたがたは神にとって、雀より、ずっと大切なものではありませんか。
- b. 驚くべき事実：永遠から永遠まで、歴史を動かす、世界を統治する神が、私の日々の必要の詳細にまで気にかけてくださっている **詩篇 37:25** わたしは、むかし年若かった時も、年老いた今も、正しい人が捨てられ、あるいはその子孫が食物を請いあるくのを見たことがない。(ダビデの経験)

☆ この事実を信じることができれば、あなたの人生の悩みはどのくらい減るだろう？

3. なぜ日ごとなのか？ (一度に与えないのか？)

- a. 「異邦人たちのように繰り返し祈るな、神は求める先に私たちの必要をご存知だから」(8)と言われていたが、そこと矛盾しないか？
 - ・ 父と子の信頼関係から考える：祈りは、私たちが絶えず神との触れ合い、交わりの中に保つ。神は、いつでも交わりを喜んでおられる。
 - ・ 祈ることを通して、自分の必要を精査し、本当の必要を自覚するようになる (祈りは自分のため)
- b. あらゆることが、神に依っていることを確認するため
 - ・ 神が支えていてくださらなければ、今までも、これからも生きていけないということを自覚するため
 - ・ そして、この神がおられれば、他に何がなくても大丈夫であるということを知るため

☆ 神との関係が、困った時やお願い事をする時だけの関係になる傾向があることに気づいたことはあるか？

■ 「父」のイメージ

1. 歪められた父親像

- a. キルケゴール：父の歪んだ神観と罪責感のため、「神に祈るということは、罪責感を感じることだ」言う
- b. フランツ・カフカ：「私はあなたにとって何者でもなかった…あなたの前で自信を失い、やがてそれが、果てしない罪意識に変わった」（『父への手紙』）
- c. フロイト「エディプス・コンプレックス」：人間の道徳観念とは概して、母親を自分のものとするために、父親を殺したいという密かな願望を巡って、内に芽生える罪意識から出てくる。（『モーセと単一神教』¹⁾）

☆ あなたは、父親と父なる神のイメージとが重なり、恐怖や疎遠な感じを持ったことはないか？

2. 聖書の「父なる神」

- a. 「アバ、父」：全く新しい祈りの発想 **ローマ 8:15** ですから私たちは、奴隷のようにいつもびくびくする必要はありません。神の家族の中に子どもとしてあたたかく迎え入れられたのですから、実の子どもらしくふるまい、神を「お父さん」と呼べるのです。

- ・ 私たちが経験してきたこの地上の親子関係とは、全く異質の新しい関係に入れられたということ
- ・ 旧約聖書では「父なる神」という表現がほとんど出て来ない。それは時代的文化的影響を受けないため²⁾

マタイ 6:6 あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。

- ・ 当時としては全く新しい発想：会堂や街角など人の集まる場所で祈るのが普通であったが、イエスは神とのプライベートな祈りの時間を持ち、弟子たちにも勧めた

- b. 父性、母性を超越した神 **イザヤ 49:15** 女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまないようなことがあろうか。たとい彼らが忘れるようなことがあっても、わたしは、あなたを忘れることはない。

- ・ かえって、母性の方を強調することにより、神のご性質を現そうとしている

- c. 父なる神とイエスの関係から学ぶ **ヨハネ 17:1, 21-26**²⁾ 父よ。お願いします。あなたとわたしが一つであるように、彼らも一つの心、一つの思いとなりますように。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるのと同じように、彼らもわたしたちのうちにいさせてください。

- ・ この祈りは、弟子たちのために祈った最後の祈りだが、イエスがこれまでどのように祈って来られたのか、特に父との親しい関係をモデルとして弟子たちに示した
- ・ 父と子が一致している様に、弟子たちも父と、そしてお互いに「一つになる」ことを目指し、最後（26）は、あなたの御名（神の本質）を知らせ、この父なる神とイエスの持っている交わりの中に弟子たちも招き入れた
- ・ 三位一体の神の信頼関係に似せて造られた本来の人間の在り方を回復していくもの（故郷へ帰る）
- ・ 栄光を現す：神のみこころに従って生きた人生は、神の栄光を現す人生（1節）

☆ 神との信頼関係を育んで行くことは、本来の人間性の回復につながると学んだが、あなたと父なる神との親密さは、どうだろうか？深まっているだろうか？それとも溝があるか？

☆ 神を信頼し、御心にかなった生き方に委ねていくなら、私の必要は、全て一番よい時に満たされると信じているか？今の必要に関してもそう信じているか？

☆ どうしたら更に神との関係を深められるだろう？神の前に静まり、瞑想（観想）する時間を持って見てはどうか？

¹⁾ イスラエルの民に殺されたモーセの死が、イスラエル人に強烈な道徳心を生み出し、それが「十戒」に集約されたとフロイトは解釈する

²⁾ ジェームズ・フーストン『神との友情：あなたを変える祈り』